

失敗＝学びのチャンス

校長 相川 保 敏

🌸 お子様の入学・進級おめでとうございます。



今年は3月に入っても寒い日が続きましたが、急に暖くなり正門の桜も3月27日に開花しました。昨年より3日ほど早く咲き始めました。残念な

ながら始業式前に満開を迎えましたので、満開の桜を実際に子どもたちは見ることができませんでしたが、本日の始業式で映像による花見を行いました。正門の桜に子どもたちの目は輝いて見えました。温暖化による気候変動が心配される中ですが、新学期と桜との組み合わせがいつまでも続いてほしいと願います。

ところで、卒業式や入学式のイラストには必ずと言っていいほど桜が登場します。学校と桜の組み合わせはいつごろから広がったのか、調べてみました。

明治時代に学校制度が導入され、多くの学校が設立されました。当時から、日本らしい風景として桜が植えられることがあったようです。1886年に日本の会計年度が4月始まりとなり、学校の卒業式や入学式が3～4月に行われるようになったことで、桜が学校生活の節目と結びつくようになりました。桜が咲く時期と、新学期の始まりが重なるため、桜＝学校のイメージが定着していったようです。そして、戦後全国で多くの学校が新設・再建される中、学校の校庭や校門付近にシンボルとして桜を植えることがさらに広がっていきました。特にソメイヨシノは成長が早く、大きく育ちやすいので学校シンボルとして適していたようです。桜が植えられた学校が増え、「桜と学校」のイメージがより一般的になり、現在に至っています。もし、外国のように9月始まりであれば、どうなっていたのでしょうか。

さて、昨年度は、子どもたちが主体的に学べるように、そして他者とのかかわりを大切にしていけるよう

に、これまでにない学習活動や方法を取り入れてきました。主に学年単位で取り組んできましたので、ご存じの部分もあるかと思います。例えば、「探究（プロジェクト型）学習」として、6年生は世界の料理を給食に提供してもらうために、小グループで興味のある国の料理を調べてプレゼンを行い、全校投票で選ばれた料理を給食業者と折衝して提供してもらう活動を行いました。3年生は、低学年に喜んでもらえる品物やサービスを考え、それを売る活動を行いました。その際、紙のお金を作り金銭のやり取りをするとともに、これまで学んだ英語を活用して販売しました。また、個々の学び状況を踏まえた「習熟度別学習」を一部に取り入れました。6年生は英語で、5年生は算数で取り組みました。6年生はクラスを2つに分け、5年生は学年全体を3つにわけて行いました。その他にも、学年内で交換授業を実施し複数の担任で児童を育てていく「チーム担任制」や漢字の学習を自分のペースで進める「自由進度学習」に取り組むなど、新たな活動等を進めました。具体的な内容は、研究紀要として6月に皆様に配信する予定です。こうした活動の成果と課題を受け、本年度はさらに子どもたちの主体性や協働性を高める学習活動を進めていきます。

教師は、子どもたちを「教える存在」から「自ら学び続けられる有能な学習者」という子ども観に転換していきます。しかし、子どもに委ねていくことで子どもたちは時には失敗し、学びが止まってしまうことも考えられます。子どもたちが「失敗」を恐れず、「失敗」をポジティブなものとして捉える環境を周囲の大人がつくり、「失敗＝学びのチャンス」という価値観の転換を図っていきたく考えます。まずは、大人が率先して失敗を語ることで、そして失敗したときに失敗を責めずに、「じゃあ次はどうすればいいかな？」と考えさせることで、前向きな姿勢が育ちます。ご家庭でも「失敗」に対する対応のご協力をお願いいたします。